

2. 工科学部の3つのポリシー

<p>アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）</p>	<p>工科学部で学修する者は、本学の使命に共感し、「社会とともにあるデザイナー」になろうとするものである。よって、自分は社会の中で何をしたいのかという動機を持ち、本学の学修過程を履修することでそれが実現されることを理解している学生を入学させる。</p> <p>【知識・技能】 高校卒業程度の学習を終えている人 本学で学ぶに必要な日本語力を有している人</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 どのような専門職になりたいかという意志を持っている人 自分の考えを伝えるためのコミュニケーション力を有している人</p> <p>【主体性・協働性】 社会にどのような貢献をしたいかという動機を持っている人</p> <p>【意欲】 制作意欲を含み、学修動機が明確な人</p>
<p>カリキュラム・ポリシー（大学教育課程の編成・実施方針）</p>	<p>工科学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身に付けることができるように、以下のとおり教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定める。このカリキュラム・ポリシーに沿って、「学修方法」や「学修成果の評価方法」等を定める。</p> <p><教育課程> 科目区分に応じて、次のとおり教育課程を構成する。</p> <p>【基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を修得させることを目的として、コミュニケーションや経済、国際関係、倫理等、社会生活に関わる知識を修得させる「基礎科目」を開設する。 ・グローバルに活躍するために必要なコミュニケーションの汎用的技能を育成する科目を配置する。 ・職能人として必要な、広く汎用的なビジネスの知識、コミュニケーション能力及び社会に対する倫理観を醸成するための科目を配置する。 <p>【職業専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に係る専門職人材に必要とされる理論的かつ実践的な能力及び当該職業の分野全般にわたり必要な能力を修得させることを目的として「職業専門科目」を開設する。 ・理論的かつ専門性の高い即戦力となる人材の育成を図るため、演習を重視した講義科目と、実践力の修得を図る実習科目を配置する。 ・東海地域のモノづくり産業を担う専門職人材に必要な、東海地域のビジネ

スの仕組みに対する知識・理解や、顕在あるいは潜在する課題を発見する力、地域の既存事業者と共にチャレンジ精神を持って課題解決に導くためのソリューションを提案する力、社会実装までを視野に入れたプロトタイプ開発能力を涵養する科目を配置する。

- ・情報分野の専門職人材として、発見した課題を解に導くために必要な情報技術の基礎的知識を修得するための科目を配置する。

【展開科目】

- ・情報技術に関連する分野における応用的な能力であって、情報技術に係る専門職人材として創造的な役割を果たすために必要な知識・能力を修得させるため「展開科目」を開設する。
- ・東海地域のモノづくり産業に対する理解を深化させ、地域社会の既存事業者と共に、地域の持続可能な発展に導くためのイノベーション創出を志向、社会実装までを視野に入れるために必要なビジネスに関する科目を配置する。
- ・地域社会の課題を洞察し、自ら修得する情報技術の地域社会への応用性を理解、体験するための科目を配置する。

【総合科目】

- ・本学において修得した知識及び技能等を総合し、専門職人材として求められる実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させるため、「総合科目」を開設する。
- ・キャップストーン科目として「卒業研究制作」を実施する。この科目は、英語での発表を義務付けている。

<教育内容・方法>

(教育方法)

本学では「担任制度」を設け、学生10名程度に1名以上の担当教員を配し、学修計画・履修登録のみならず、より良い教育及び学修を円滑に運営するための人間環境を整え「個に対する教育」を行う。

(学修方法)

科目が初歩的なものから専門的なものへと進行する配置の中で、初歩的過程で学んだ科目内容が、どのようにして専門的な科目の基礎をなすか、また専門的科目の内容がどのようにして社会に、どのように役立つかを実習科目や総合科目を通じて学ぶ。この実感が、“Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)”の基礎となる。したがって、特に1年次では最初に動機付け及びトピックへのエクスポージャを目的とした科目によって理論を深く学ぶのではなく、何に使われているかを中心に理解する。その後に原理や理論を学ぶ科目を配置している。これは自分が持っている社会に役立ちたいという動機が、学問によって裏付けられることを経験し、実感的動機を論理的動機に変換させ

	<p>ることでもある。それに基づいて、専門的な科目は学修への動機を満たすものとして自発的に学修することが可能となる。これを実現するために、実務経験のある教員から何を学ぶかを知り、また実習、演習、臨地実務実習等も、漫然と課題に向かうのではなく、自発的に学修するものとして位置付けることができるものとなる。</p> <p><学修成果の評価></p> <p>【通常授業】</p> <p>単位認定は所定の授業回数の8割以上の出席・課題提出を前提とし、その上で、各授業に応じて評価することとする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p> <p>【臨地実務実習】</p> <p>臨地実務実習科目においては、受け入れ先の企業との連携の重要性から、必ずルーブリック評価表を用い、公平で客観的かつ厳格な成績評価を行うこととする。詳細の評価については、各種シラバスで明示する。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)</p>	<p>本学部は情報技術を応用する領域における専門職を養成する。そのため、本学のディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、定められた課程において以下の知識・能力・志向を修得し、教育の理念であるモノづくりに強みを持つ“Designer in Society (社会とともにあるデザイナー)”として活動することができる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p>【知識・理解】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報技術の知識：情報技術分野の専門職人材として、発見した課題を解に導くために必要な基礎的知識を有している。 2. ビジネスの仕組み：ビジネスの仕組みと関連する知識を有している。加えて、自らが修得した能力のビジネスとしての応用領域を理解している。 3. モノづくりへの理解：東海地域のモノづくり産業に関する知識を有するだけでなく、自らの修得した能力との接点を理解し、現場の経験から得たノウハウを有している。 <p>【能力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. コミュニケーション力：異分野・他分野とのコミュニケーション能力を有している。 5. 問題発見力：モノづくり産業に情報技術を応用、主導する専門職人材として、問題を発見・設定する力を有している。 6. 問題解決力：モノづくり産業において発見した問題に対し複数のソリューションを提案することができる。 7. プロトタイプ開発力：モノづくり産業の課題へのソリューションとなるプロトタイプを実際に開発する能力を有している。

【志向・態度】

8. 共創の精神：他者との関係や多様な価値観、他文化を理解し、対話と協調性を持って共創へと導くことができる。
9. チャレンジ精神：新しいモノ・コトでも躊躇せず、変化を好んで対応し、向上心を持ってトライアル・アンド・エラーを厭わず最後までやり遂げる。
10. 社会倫理：倫理観を持って、社会に解決案を提案することができる。
11. 情報倫理：地域社会の発展のために情報技術分野の専門職人材として貢献できる。